

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月11日

【評価実施概要】

事業所番号	270500408		
法人名	社会福祉法人拓心会		
事業所名	グループホームわらび		
所在地 (電話番号)	〒037-0012 青森県五所川原市水野尾字懸樋222-5 (電 話) 0173-38-3088		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 9月 26日	評価確定日	平成 20年 11月 11日

【情報提供票より】(平成20年8月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16人, 非常勤 人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	8,400~ 冬季15,900円 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	10 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富田胃腸科内科
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは自然環境豊かな場所にあり、同法人が経営する多数の施設の一面に立地している。通所サービスの施設と廊下でつながっているので行き来でき、多機能密着型サービスとしての体制を整えているので、入居に対する不安を感じる事なく馴染みながらのサービス利用が可能である。又、「気持ちに寄り添うケア」という理念のもとに、利用者一人一人の思いを大事にしたいという職員の熱意が、日々の生活の中に、介護計画の中に十分反映されていると感じられる。入居前に住んでいた地域の行事へ参加する等、地域の中でのその人らしい生活を継続できるようにと支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題項目の多くは改善し、対応されている。地域密着型サービスとしての理念の構築と職員への権利擁護の研修機会の提供については、引き続き改善にむけた取り組みを期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価は職員全体で取り組み、課題に関してはお互いの意見を尊重し、改善に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4.5.6)
重点項目	運営推進会議は定期的開催されており、ホームの生活や外部評価の報告、祭りの行事への参加協力依頼、感染症マニュアルの紹介等積極的に話し合いが行われ、サービスの向上に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
重点項目	面会時や月1回の請求時には個々に状況報告の手紙を同封する等、家族へきちんと報告がなされている。又、苦情受付体制として意見箱の設置、年1回のハルニレだよりや年2回のわらび新聞にて家族からの意見、要望等の吸い上げに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	利用者の出身地の行事へ参加したり、少し遠くても入居前のかかりつけ医の受診を継続する等地域とのつながりを大事にしている。又、地区のグループホーム協会主催の会議や地域ケア会議へ参加して意見交換をしたり、ボランティアや中学校の職場体験の受け入れをする等地域への還元、貢献を推進しているので、今後も積極的な取り組みを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「気持ちに寄り添うケア」を理念に掲げ、ホーム内の生活は勿論のこと、利用者が入居前に住んでいた地域にも目を向けて、一番大切にしている事を大事にして実践している事が伺える。	○	利用者の出身地の行事に参加して交流を持つ等、地域の中でその人らしく生活していく事を具体的に実践しているので、それを理念として文章化する事が望まれます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、副管理者、職員は自分だったらという事をいつも念頭に置き、理念を共有してケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地区の自治会や町内会へは入会していないが、運営推進会議には町内会の方が参加しており、法人全体で行うハルニレ祭りには婦人会、ボランティアの協力が得られ、地域の人達との交流が持たれている。又、同敷地内に同法人のケアハウスや通所施設があるので、行事等で行き来して顔見知りとなっている。その他、利用者の出身地域の行事への参加や中学校の職場体験の受け入れ、キャラバンメイトとして積極的に地域の認知症普及活動に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全体で取り組み、課題に関してはお互いの意見を尊重し、改善に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容としては、外部評価の報告、祭りへの参加依頼や、感染症マニュアルの紹介等積極的に話し合いが行われ、サービス向上に活かされている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている他に、グループホーム協会主催の会議にも市の担当者に参加してもらい、現場の実情を説明している。又、消防署の方から防災の説明を受ける等サービスの質の向上に繋がるように努めている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用されている利用者はいない。副管理者は研修を受けているが、全職員への研修の機会を設けていない。	○	今後、制度を利用する人が増えていくと思われる為、職員も学ぶ機会を持ち本人、家族へ支援していく事を期待します。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	副管理者は県の虐待防止マニュアル作成の担当者となっている為、自らも勉強して、職員へ伝え、虐待防止に努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書等の書類にて十分な説明を行い、理解・納得を得た上で契約書を取り交わしている。		
10	12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは面会時と1カ月に1回の請求時に手紙を同封して状況を報告している。広報誌としてわらび新聞を年2回、ハルニレだよりを年1回発行し、利用者の生活や職員の異動等も報告している。		
11	13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置して苦情処理体制を整えている。又、家族からの要望には迅速に対応し、改善に努めている。		
12	16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人内の異動については、日頃行事等で行き来して顔見知りになっているので、ダメージは少ないと思われる。利用者には会話の中でさりげなく伝え、不安のないようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
入					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する外部研修には参加しやすいように配慮されており、研修報告は全職員が閲覧できるようにしている。又、法人全体で事業所によって差がないように園内研修やOJTを実践している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や地区のグループホーム主催の会議へ参加したり、キャラバンメイトとして積極的に活動しており、同業者と交流する機会が持たれている。そこで得た知識は職員へ伝え、サービスの向上に努めている。		
マ					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内のケアハウスやデイサービスの利用者だった方の入居が殆どの為、入居前から職員と顔なじみであり、安心して入居できている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から調理方法や掃除の際のはたきの掛け方を教えてもらう等、生活の中で常に学びがあり、共に支えあい生活している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴やアセスメントにより、利用者の思いをくみ取っている。利用者からの希望は出来る限り実現できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向が確認されており、きめ細かな介護計画となっている。又、利用者の状態に合わせてセンター方式を使用している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月に1回の定期的な見直しと、利用者の状態変化に応じて随時カンファレンスを行い介護計画の見直しをしている。介護計画の見直しの前にモニタリングが必要であるが、モニタリングの記録がない。	○	定期的にモニタリングをしていく事により、課題や目標到達が把握できる。より質の高いサービスを提供していく為に、モニタリングとその記録を整理して頂くよう期待します。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同敷地内にあるデイセンターのリハビリ器具を活用したり、行きつけの理美容院へ連れて行ったりと本人、家族の要望に対応している。小規模多機能型施設として対応できるように設備は整っているため、いつでも柔軟な支援は可能である。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診するのに時間がかかる所でも、本人と家族の意向を大事にして、入居前のかかりつけ医を継続できるように支援している。状態の急変時やインフルエンザ等の予防接種はホームの協力病院を利用している。		
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時にホームで対応できる許容範囲(経口摂取可能であること)を説明している。又、利用者の重度化や終末期について家族、職員、医師と話し合い相談しながら取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	部屋の表札は家族へ確認している。面会簿は家族の希望にて、1枚ずつの面会票としてポストに入れ、他の家族や面会者の目に触れないように個人情報の取り扱いに注意している。		
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の希望に耳を傾け、ショッピング、外出、理美容院、食事、喫茶店に行く等支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは職員が作成しているが、食べたいものを聞いて変更する事もある。食材の下準備の手伝いや片付け等職員と共に楽しみながら行っていた。検食担当の職員が利用者と一緒に昼食を摂っていた。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴を実施。日中、受診等で入浴できない時は夜間の入浴も実施しており、自由に入浴を楽しめるように支援されている。昼夜逆転の利用者は入浴時間を変える事で安眠されているとの事である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の下準備、食器洗い、食器の片付け、カーテンの開け閉め、日曜大工、日曜日のショッピング等一人一人のニーズや楽しみを持てるような支援がなされている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内が広いので自由に散歩している。日曜日はショッピングの日として、又、誕生日には外出して好きな物を食べてくる等、色々工夫しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
会					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われていない。日常生活の中でその都度検証している。口頭だけでは伝わらないので、文章にして職員に周知徹底している。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠している。日中は徘徊する人の安全確保の為に、玄関にセンサーが設置されている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、地元の消防団の協力を得て避難訓練を実施しており、地域の人達の協力体制は出来ている。	○	今年の11月に救急法の研修を法人全体で行う予定となっている。AEDの取り入れも検討中で、地域の人達への活用も考えているとの事なので期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は以前、栄養士が作成したのを参考にしながら職員が作成している。水分、食事の摂取状況は毎回チェックして記録しており、状況がひと目でわかるようになっているので、支援しやすい体制になっている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人のマニュアルの他に、ホーム独自の実践に沿ったマニュアルがあり、とても見やすく、すぐ利用できるようになっている。除菌は毎日実施しており、洗面所に消毒液を常備している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には沢山の花や鉢植がおりてあり、共用の空間はとても明るく、空調も調整されている。居間にはソファやテーブルが置かれ、居心地良く好みの場所でくつろぎ過ごせるように工夫されている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの持込みは自由となっている。居室には仏壇を置いたり、洗濯物を干したり、家族の写真等も飾られ、安心して居心地良く過ごせるよう配慮されている。		

 は、重点項目。